

フィリピン・マニラ市トンド地区スモーキーマウンテン2の
強制立ち退きに反対する
署名・カンパにご協力いただきありがとうございました
5012名の署名を
フィリピン大統領と在大阪フィリピン総領事宛に届けました
2012年10月31日

2012年8月から開始した「6500人の暮らしを守る」署名キャンペーンと「立ち退き反対運動への応援カンパ」キャンペーンは、多くの皆様のご協力をいただき、10月3日現在で、5012筆の署名と273,248円のカンパをいただくことができました。

7月22日にマルーさんが殺されて以降、アクセスでは、8月9日から14日までスモーキーマウンテン支援チームのボランティアスタッフがフィリピンを訪問し、スモーキーマウンテン2のスタッフや住民と交流を行いました。また、8月18日から実施したスタディツアーに同行した野田事務局長が現地の状況を詳しく聞き取りました。

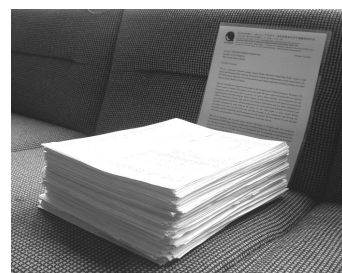
以下、署名とカンパにご協力いただいた皆様に、この間の現地の状況についてご報告いたします。

<署名をフィリピン大統領と在大阪総領事に届けました>

9月30日を第一次の集約日としてご協力いただいていた「6500人の暮らしを守る」署名キャンペーンは、10月3日現在、署名用紙への署名4885筆、ネット署名への署名127筆、合わせて5012筆の署名が集まりました。これらの署名は、10月11日、手紙を添えてベニグノ・アキノ3世フィリピン大統領宛に宅配便で送りました。また、10月17日には、アクセスの職員2名とスモーキーマウンテン支援チームのボランティアスタッフ3名が、在大阪のフィリピン総領事館を訪ね、署名のコピーと総領事宛の手紙を、当日対応してくれた副領事のマイケル・ガルシア氏に手渡しました。ガルシア副領事は、五千名を越える日本の市民が、スモーキーマウンテン2の強制立ち退きに反対していること、また遠く離れた土地へ移住するのではなく、現在のコミュニティに住み続け、より生活しやすい環境にするというスモーキーマウンテン2の住民の望みが実現することを願っていることを、フィリピン外務省に報告し、外務省から大統領府や立ち退きの担当部局である国家住宅局に伝えることを約束してくれました。



(ガルシア副領事に署名を手渡す)



(集まった5012筆の署名)

<マルーさん殺害事件のその後と住民への影響>

マルーさんを殺した犯人たちが所属しているギャンググループは、最近では、夜になるとコミュニティ内を自由に歩き回っています。ギャングたちのリーダーは、地域の自衛武装団のリーダーでもあります。この自衛武装団のメンバーたちは、“自衛団”と書いた制服を着、銃を持ち歩き（許可されていないわけではありません）、夜中や早朝に発砲して住民を怖がらせています。彼らは、マルーさんに同情的な

人間に対し、関与するな、さもなければ殺すぞ、と脅して回っています。地区の警察（バラングイ警察）はギャングとつながっていることで知られており、ギャンググループや自衛武装団による脅迫行為を取り締まる気配はありません。

マルーさんを殺した犯人たちも元通り自由気ままに行動しています。犯人逮捕には逮捕状が必要だとされていますが、今のところ、マルーさん殺害に関する逮捕状は発行されていません（8月1日付の文書では逮捕状が発行されたと報告しましたが、誤報でした）。検察は、逮捕状発行を求めてマニラ地方裁判所に告発の書類を送っています。この告発の中では、犯人であるラフィー・テハスとベン・テハスが現場におり、殺害事件が起きた旨を記しています。これを受けて、地裁の担当判事は検察からの書類の内容の確認をしているところです。10月になって、告発されている犯人たちは、告発に反論する宣誓供述書を提出しました。このままの状況では、マルーさんの家族や、地域の支援者、事件を支援している諸団体、そしてアクセスにも、犯人たちが危害を加える危険性があります。

こうした中、マルーさんが所属していた住民組織 SSDN は組織としてオープンな活動ができなくなりました。ギャングたちから手榴弾を投げ込むと脅されるので、大衆的な行動を行うことは困難です。住民達は怖がり、参加したがりません。マルーさんの家族は地域外に住むことを余儀なくされ、子どもたちは安全のため学校に通うこともできません。他方、SSDN 以外の二つの住民組織は、立ち退き賛成の立場を取るようになりました。

<アクセスフィリピンの活動>

マルーさんの事件のあと、アクセスフィピンは、犯人たちを告発する手続きを援助するとともに、マルーさんの家族の支援を行いました。なるべく頻繁に避難している家族を訪ね、子どもたちの精神的なケアを心がけてきました。子どもたちの一人はサッカーチームに所属し、活動するようになっています。

他方、地域での保健衛生プログラム、女性プログラムを続けています。事件後、アクセスのスタッフは地域への立ち入りができなくなり、二名の現地採用のスタッフも地域外に避難しています。保健衛生プログラムを担当してくれているヘルスワーカーたち

（研修を受けた現地の住民）は、事件直後は怖れて活動から離れていましたが、その後活動に復帰し、スモーキーマウンテン2内のアクセスが運営している多目的保健センターで、住民に対する初期治療及び結核予防・治療の活動を継続しています。ですが、スタッフを交えた会議や研修をセンターで行うことができなくなったので、地域の外で会議や技術研修などを行っています。女性プログラムについても同様です。（写真右上：9月27日・28日、性と生殖に関する研修を受けるヘルスワーカーたち。

写真右下：9月28日、同じテーマで43人の地域の女性たちが研修に参加した。7名のヘルスワーカーが研修を主催した。）



<引き続き署名とカンパにご協力ください！>

アクセスでは、引き続き「6500 人の暮らしを守る」署名キャンペーンを行っています。上で報告したように、現地ではギャングたちの暴力支配が続いており、住民たちは自分たちの意見を自由に表明し行動するという基本的人権が侵されています。立ち退きを受け入れるか、あくまで地域に住み続けることを主張するかは、住民自身が決めるべきことですが、少なくとも住民たちが自由に意見を表明し、議論し、行動することを保証することがフィリピン政府の義務であり、マルーさんを殺害した犯人たちを捕らえ、処罰することが司法当局の義務です。

署名を通じて、日本の多くの市民がこの立ち退き問題に関心を持っていて、地域に住み続けたいという住民の意思を支持しており、またマルーさんが殺害されたことをうやむやにすることを許さないという意思を持っていることをフィリピン大統領に示すことが、犯人の逮捕・起訴に向けた圧力になり、ひいてはスモーキーマウンテン2住民の権利を擁護することにつながります。その中で、フィリピン政府も、地域に住み続けることを望む人たちの意見に耳を傾けるようになるかもしれません。私たちはマルーさんの死を決して無駄にたくありません。ぜひ引き続き署名集めにご協力ください。

署名の目標数は1万名です。第二次の集約日は2012年11月30日です。

★継続して署名集めにご協力いただける皆様へ

アクセスでは、立ち退き反対キャンペーン公式サイトを設置しています。

<http://accefit.web.fc2.com/demolition.html> または 「6500 人の暮らしを守る」で検索

サイトでは、署名用紙やチラシなどがダウンロード可能です。Web 上での署名も可能になりました。スモーキーマウンテン2住民の生の声を撮影した動画メッセージも公開しています。ぜひ一度、ご覧ください。

*署名いただいた方々の個人情報適切に管理し、署名提出以外の目的では使用しません。

※印刷された署名用紙とチラシが必要な方は、希望部数をアクセス事務局までご連絡ください。

郵便にてお送りします。

※Twitter や Facebook などの SNS を利用されている方は、ぜひ多くの方に Web 署名への参加を呼びかけてください。

★カンパのお願い

また、スモーキーマウンテン2での事業へのカンパにご協力下さい。現在、立ち退き反対キャンペーンをフィリピンと日本で進めるにあたり、さまざまな費用が発生しています。マルーさんの事件の裁判費用や遺された子どもたちへの支援などの費用も必要です。他方、怪我や下痢・発熱・喘息などの初期治療や結核治療のために多目的保健センターを訪れる人は減っていません(8月96名、9月89名)。保健衛生事業の運営を継続するために助成金の申請を計画していましたが、マルーさんの事件以降事業環境が不安定になる中で申請を断念せざるを得ませんでした。ぜひカンパにご協力下さい。

お振込み先:郵便振替口座 番号 00960-8-159800 加入者名 ACCE

*同封の郵便振込用紙をお使いください。

*保健衛生事業へのご寄付の場合は、通信欄の「スモーカーマウンテン保健衛生事業への寄付」の欄にご寄付いただく金額をご記入ください。

*立ち退き問題へのご寄付の場合は、通信欄の空いたスペースに「立ち退き (円)」とご記入ください。

*ご寄付下さった方には、お知らせいただいたご住所に活動報告をお届けする予定です。

以上、引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会

担当：森脇

〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町4-78 村井第一ビル7号

Tel/Fax：075-643-7232、Email： acce@sannet.ne.jp

URL： <http://www.page.sannet.ne.jp/acce/>